乳児一養育者の音声相互行為における声の重複

○嶋田容子

(京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科)

キーワード: 乳児, 養育者, 音声相互行為

Overlapping vocalizations in infant-caregiver interaction
Yohko SHIMADA
(Graduate School of Asian and African Studies, Kyoto Univ.)
Key words: infant, caregiver, vocal interaction

目 的

音声相互行為の研究において、発話者のターンが交代することは基本的な規則とみなされる場合が多い。しかし、身近な現象として、人と人の声が重なることを許す相互行為は決して少なくはない。近年の人類学および霊長類研究から、重複を許す音声相互行為の事例は、いくつも挙げられている。そしてこれらの現象は、co-action, 同調, 共振といった概念をもちいて解釈されている(木村, 2010; 都留, 2010 他)。また発達心理学においても Starn (1975)が、養育者と乳児の音声重複するパターンが決して稀ではないことを報告している。この研究でも、co-action と alternation という二つのコミュニケーション・モードが提唱された。

これらの研究が指し示すコミュニケーションのパターンが、ターンの交代とは異なるもうひとつの「モード」だとして、このモードはどのような人間の行動に関連するものなのだろうか。本研究では、重なりを許す音声相互行為の意味を、発達初期の音声相互行為のパターンの変化から探る。今回の発表ではその端緒として、乳児と養育者の自然な相互行為に重複が実際に生起する可能性、さらに、それが幼児と養育者のパターンとは異なっている可能性を検討する。

方 法

研究対象: 生後 8 ヶ月・18 ヶ月の乳児とその養育者、合計 11 組が、協力に同意した上で研究に参加した。
機材: IC レコーダー、ビデオカメラ
手続き: 協力者の家庭を調査者が月に一度ずつ訪問し、毎回 2 時間に渡って自然な相互行為をビデオカメラで撮影・録音した。すべての記録について、研究内容を知らされていない第三者が、発声者・発声された音(または言葉)を書き起こした。この書き起こしに基づいて、乳児—養育者間の音声相互行為を含むビデオサンプルが取り出された。分析では、これらのビデオサンプルに含まれる各乳児発声の開始・持続時間をコーディングし、音声の重複時間を分析した(図 1)。

図 1. 分析例 (Elan3.8.1 による)

結 果

予備的データ分析に基づいて、8 ヶ月児と 18 ヶ月児それぞれと養育者との音声相互行為における音声重複時間を比較した結果、8 ヶ月児と養育者との間で多くの重複が観察された(図 2)。音声の交代については、18 ヶ月児と養育者との音声相互行為において多くの時間が観察された。

図 2. 8 ヶ月児・18 ヶ月児と養育者の相互行為における発声の重複率(乳児と養育者の音声重複している時間 / 乳児の発声持続時間×100)。

考 察

月齢の低い乳児と養育者との音声相互行為において、発声の重複するパターンは多く生起していた。月齢の高い乳児では重複が少なく、養育者と音声を重ねることなく交代するパターンが多く観察された。月齢の高い乳児では、養育者との相互行為において成人の会話のルールに近い形がとられていた可能性がある。今後は、発達変化のより詳細な記述が今後必要である。また、交代と重複がどのような条件において使い分けられている可能性も、今後の検討課題である。

引用文献

【文献】
Stern (1975)。 Vocalizing in unison and in alternation: two modes of communication within the mother-infant dyad, *Annals of the New York Academy of Sciences*, 264, 89-100。
木村大治 (2010)。 相互行為と双対図式, In 相互行為の境界と接続, 木村大治, 中村美知夫, 高梨克也編, 昭和堂。
都留泰作 (2010)。 バカ・ピグミーの歌と踊り, In 相互行為の境界と接続, 木村大治, 中村美知夫, 高梨克也編, 昭和堂。

本研究は科研費若手 S「養育者—子ども相互行為における責任の文化的形成」(代表 高田明)の共同研究の一部として実施されました。また本研究は一部、ヤマハ音楽振興会の 2010 年度研究助成を受けました。記して感謝致します。